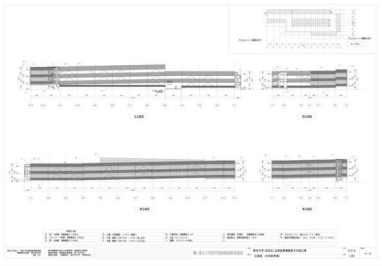
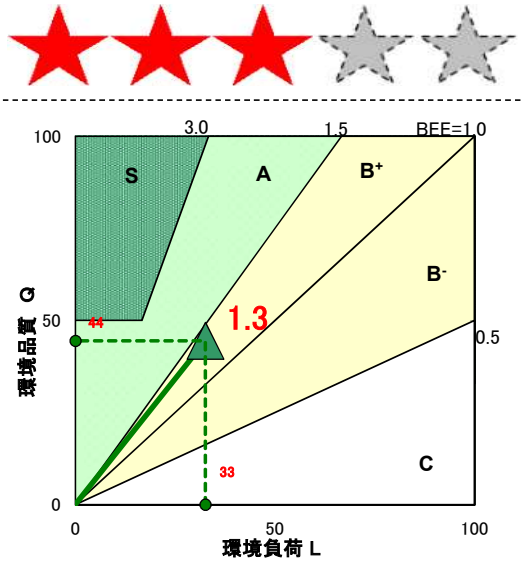
CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	熊本大学(本荘北)立体駐車場新営	階数	地上2F	
建設地	熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番	構造	S造	
用途地域	商業地域、近隣商業地域、第2種住	平均居住人員	0 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年12月　予定	評価の実施日	2012年7月20日	
敷地面積	84,966 ㎡	作成者	甲斐田	
建築面積	2,232 ㎡	確認日		
延床面積	4,401 ㎡	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.3

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値	判定値 Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	ー
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	ー
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	ー
C	★	劣る	0.5未満	ー

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

排出率
79%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
88

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	110.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	70.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.7

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

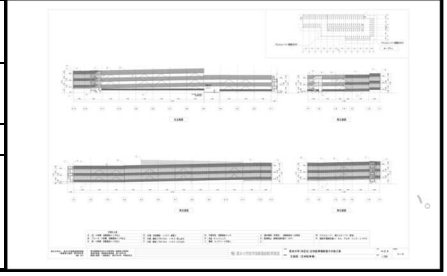
CASBEE® 熊本《新築》【 評価結果 】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版　使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要

建物名称	熊本大学(本荘北)立体駐車場新営	階数	地上2F
建設地	熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番	構造	S造
用途地域	商業地域、近隣商業地域、第2種住	平均居住人員	0 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年12月　予定	評価の実施日	2012年7月20日
敷地面積	84,966 ㎡	作成者	甲斐田
建築面積	2,232 ㎡	確認日	
延床面積	4,401 ㎡	確認者	

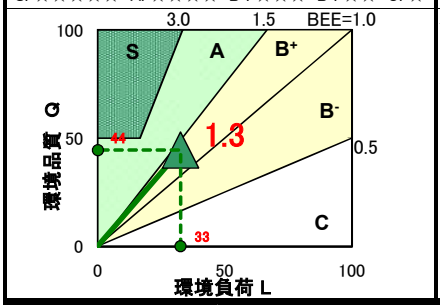
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

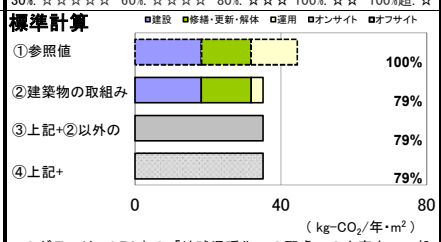
BEE =1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



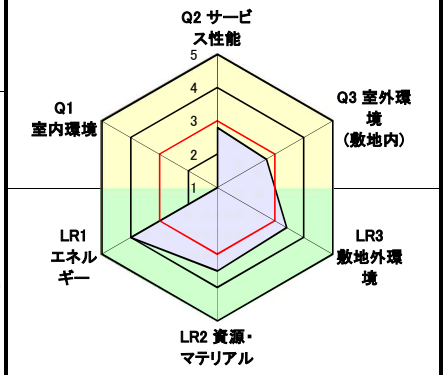
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです　（

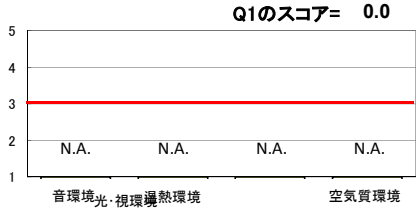
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



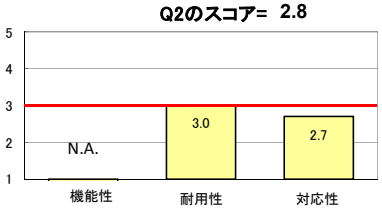
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.7

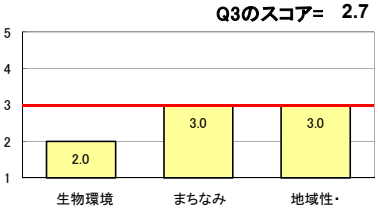
Q1 室内環境　Q1のスコア= 0.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.8

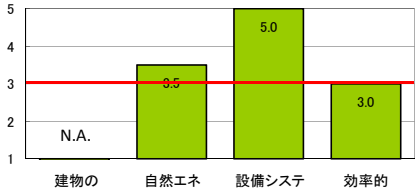


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

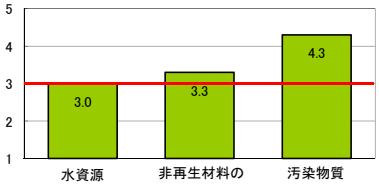


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.6

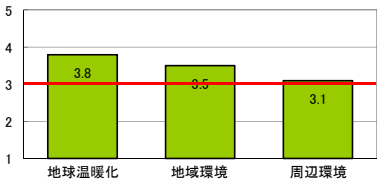
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.5



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.4



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 88

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 111

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 70

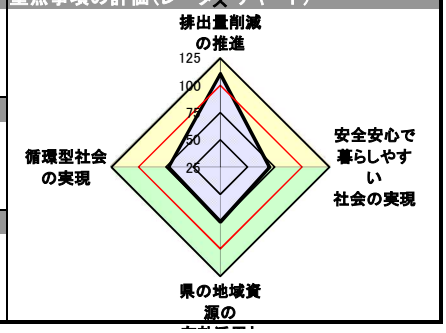
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 75

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 = 73

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

熊本大学(本荘北)立体駐車場新営その他工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			-			-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 騒音		-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		-	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温		-	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		-	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-	-	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		-	-	-	-	
3 映り込み対策		-		-		
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.43	-	-	2.8
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	1.00	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.52	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.42	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.42	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.17	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	-	-	-	

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
		1	空調・換気設備	-	-	-	-	
		2	給排水・衛生設備	-	-	-	-	
		3	電気設備	3.0	0.50	-	-	
		4	機械・配管支持方法	-	-	-	-	
		5	通信・情報設備	3.0	0.50	-	-	
3 対応性・更新性				2.7	0.48	-	-	2.7
	3.1 空間のゆとり			2.2	0.31	-	-	
		1	階高のゆとり	1.0	0.60	3.0	-	
		2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	4.0	-	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
		1	空調配管の更新性	-	-	-	-	
		2	給排水管の更新性	-	-	-	-	
		3	電気配線の更新性	3.0	0.50	-	-	
		4	通信配線の更新性	3.0	0.50	-	-	
		5	設備機器の更新性	-	-	-	-	
		6	バックアップスペースの確保	-	-	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）				–	0.57	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				–	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				–	0.40	-	-	4.0
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.5	0.29	-	-	3.5
	2.1 自然エネルギーの直接利用			4.0	0.50	-	-	
	2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				5.0	0.43	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価（ERRによる評価）		ERR=74.1%	5.0		-		
	集合住宅の評価			3.0		-		
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
	4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
	1.1 節水			-	-	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63	-	-	3.3
	2.1 材料使用量の削減			4.0	0.07	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.21	-	-	
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		再生骨材の路盤などへの利用	3.0	0.21	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22	-	-	4.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.68	-	-	
		1	消火剤	-	-	-	-	
		2	発泡剤（断熱材等）	5.0	1.00	-	-	
		3	冷媒	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮				3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
		2	汚水処理負荷抑制	-	-	-	-	
		3	交通負荷抑制	5.0	0.50	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
		1	騒音	3.0	1.00	-	-	
		2	振動	-	-	-	-	
		3	悪臭	-	-	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制	1.0	-	-		
		3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

・建物の開放性を高めることにより採光、風の流れに配慮した。また、見通しを良くすることにより防犯にも配慮した。

Q1 室内環境

ー

Q2 サービス性能

・鉄骨を溶融亜鉛メッキ加工することにより、耐久性の向上を図った。

Q3 室外環境（敷地内）

・駐車場の開放性を高めることにより、風が通り抜けやすいよう配慮した。

LR1 エネルギー

・駐車場の開放性を高め、タイムスイッチや自動点滅器を設置することにより、日中の照明の点灯を減らせるよう配慮した。

LR2 資源・マテリアル

・主要構造躯体である鉄骨の基準強度に配慮し、使用材料を減らすよう努めた。

LR3 敷地外環境

・駐車場出入口を敷地奥に設置することにより、料金ゲートを現状位置から移動しない計画とし、車両の敷地内待機スペースを確保し、敷地外に渋滞が発生しないよう計画した。

その他

・埋蔵文化財があるため、掘削底をＧＬ-1.0ｍまでとし遺跡を荒らさない様、考慮した。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	*熊本大学（本荘北）立体駐車場新営その他工事*

■評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		87.8
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				110.7	0.40	44.28
Q1-2.1.3	外皮性能	*0.0*	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	*0.0*	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	*0.0*	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	*0.0*	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	*3.5*	0.29			
LR1-3	設備システムの高効率化	*5.0*	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	*4.0*	0.14			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	*5.0*	0.14			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				70	0.20	14.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	*0.0*	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	*3.0*	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	*2.0*	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	*3.0*	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	*3.0*	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	*3.0*	0.50			
LR2-1.1	節水	*0.0*	0.00			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	*3.0*	0.50			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	*0.0*	0.00			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	*3.0*	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	*2.7*	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数